

住民アンケート調査結果報告

(1)目的

釜石市都市計画マスタープランの策定にあたり、将来的な都市づくりに関する市民の意向を把握することを目的に実施した。

(2)調査対象者

市内に居住する 18 歳以上 80 歳未満の 1,000 人を住民基本台帳から無作為抽出した。

(3)調査方法

郵送による調査票配布・回収を行う。また、インターネット回答も選択可能とした。

(4)調査期間

令和 2 年 11 月 16 日から令和 2 年 12 月 18 日まで。

なお、アンケート調査票の返送は、令和 3 年 3 月末日まで可能としている。

(5)調査項目

- ①回答者自身について
- ②外出目的、交通手段について
- ③人口減少・少子高齢化について
- ④暮らしの場のあり方について
- ⑤これまでの取り組みに関する満足度について
- ⑥将来の都市づくりの方向性について
- ⑦自由意見

(6)調査概要

表 市民アンケート調査概要

項目	釜石市民
調査対象数	釜石市民 1,000 人
抽出方法	令和 2 年 10 月現在、18 歳以上 80 歳未満の 1,000 人を住民基本台帳から無作為抽出
調査地域	釜石市全域
調査期間	令和 2 年 11 月 16 日～令和 2 年 12 月 18 日まで
回答者数	釜石市民 341 票、回収率 34.1%
調査方法	郵送による配布・回収及びインターネットによる回答

2.地区別回答者数の結果

- ・本調査における回答者数は 341 サンプル、回答率は 34.1%である。(令和 2 年 12 月末時点)
- ・郵送による回答者数は 316 サンプル、WEB 回答者数は 25 サンプルであった。
- ・地区別回答数は、釜石地区、甲子地区、小佐野地区の順に多い結果であった。

表 地区別回答者数

	都市計画区域内		都市計画区域外		計	
釜石地区	58 人	17.0%	－	－	58 人	17.0%
中妻地区	30 人	8.8%	－	－	30 人	8.8%
小佐野地区	48 人	14.1%	－	－	48 人	14.1%
甲子地区	54 人	15.8%	0 人	0.0%	54 人	15.8%
鵜住居地区	35 人	10.3%	5 人	1.5%	40 人	11.8%
平田地区	31 人	9.1%	3 人	0.9%	34 人	10.0%
唐丹地区	－	－	35 人	10.3%	35 人	10.3%
栗橋地区	－	－	34 人	10.0%	34 人	10.0%
不明	－	－	－	－	8 人	2.3%
計	256 人		77 人		341 人	100.0%

Q1-3 居住地をお答えください

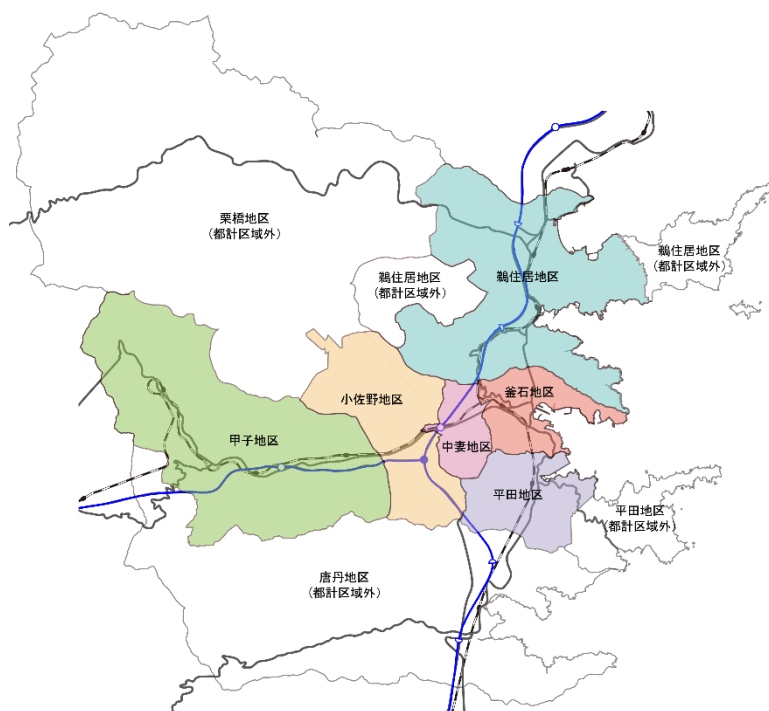
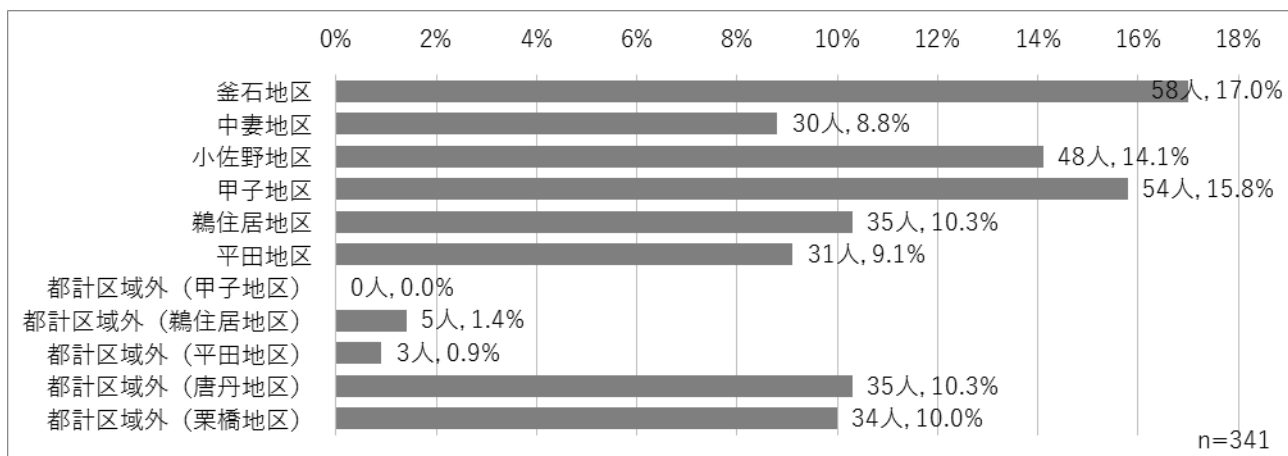
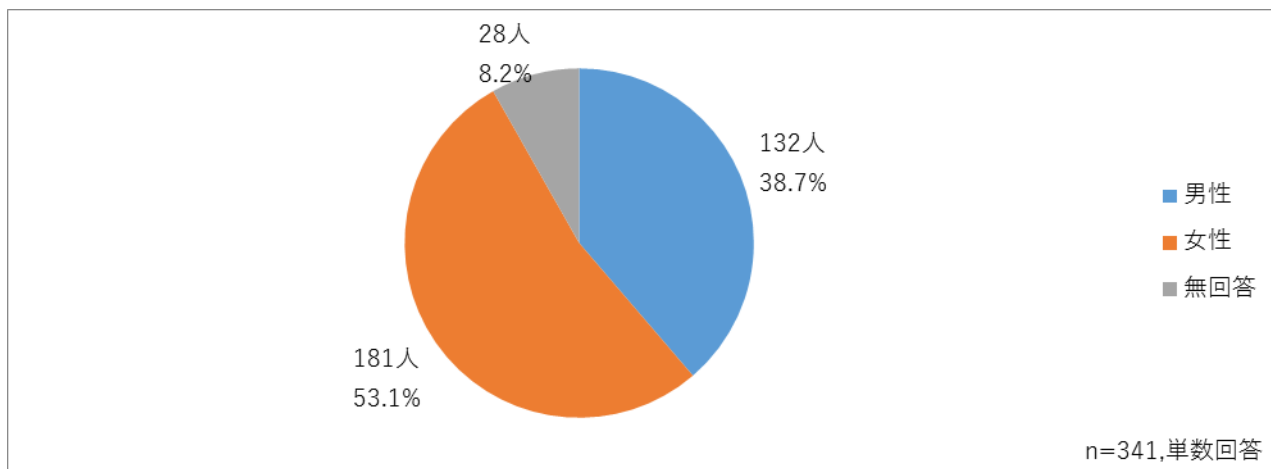


図 地区区分と位置

3.単純集計結果

(1) 回答者の属性

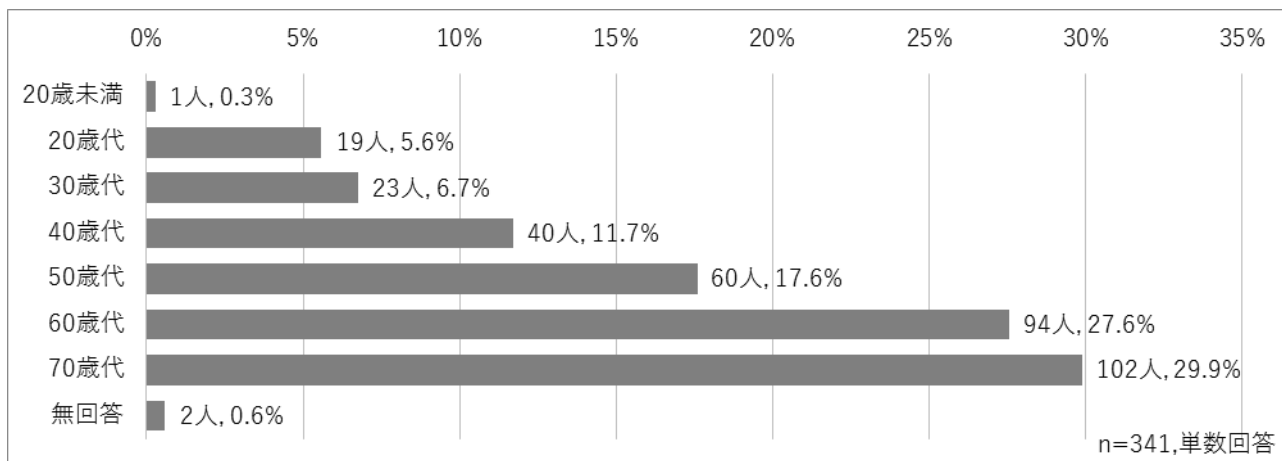
Q1-1 性別を選んでください



・回答者の性別をみると、「女性」が53.1%であり、「男性」の38.7%より多い結果である。

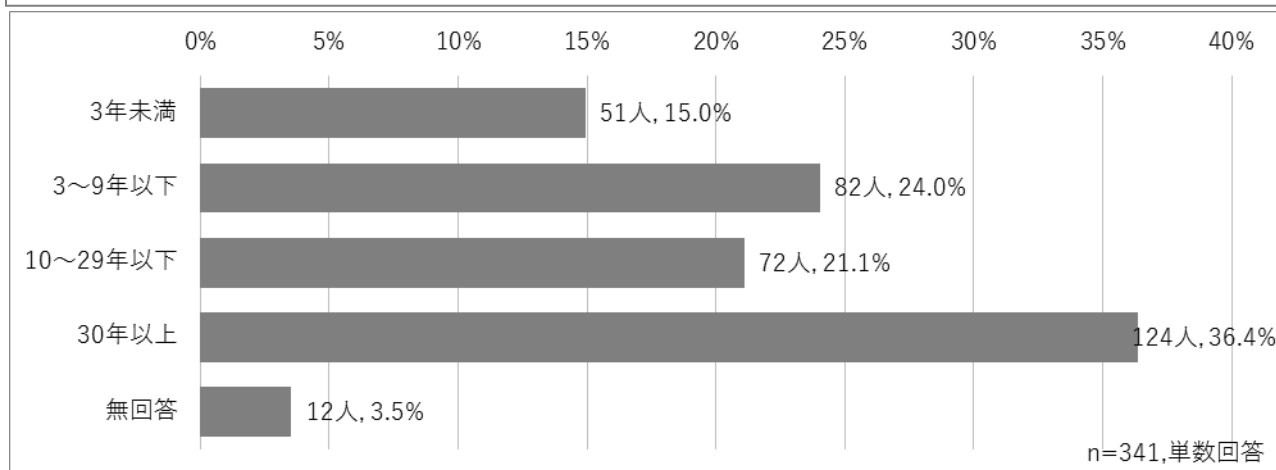
Q1-2 年齢を選んでください

・回答者の年齢をみると、「70歳代」が29.9%と多く、次いで、「60歳代」の27.6%、「50歳代」の17.6%の順となっており、比較的年齢層が高い方が多く回答された。



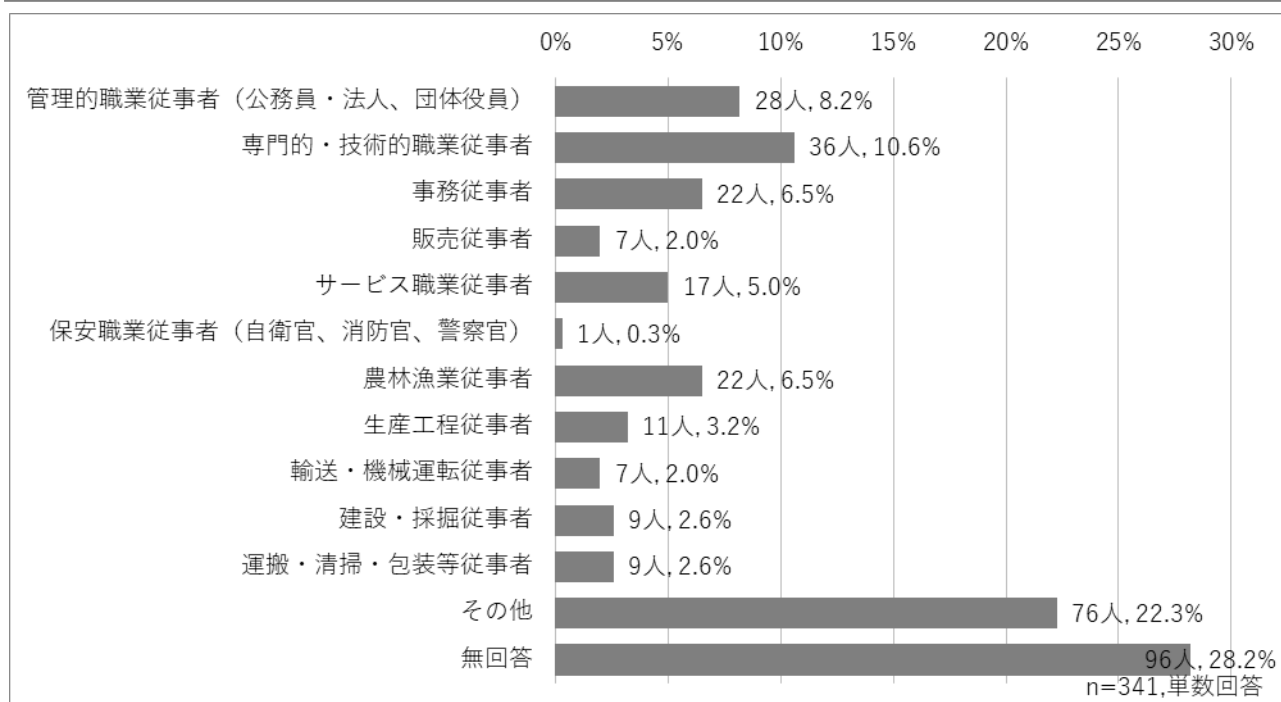
Q1-4 居住年数を選んでください

- ・回答者の居住年数をみると、「30 年以上」が 36.4%と多く、次いで、「3～9 年以下」の 24.0%、「10～29 年以下」の 21.1%の順である。なお、居住年数「3～9 年以下」については、震災後に居住された方であり、被災された方が新たな住まいの場として居住されたことが要因と想定される。



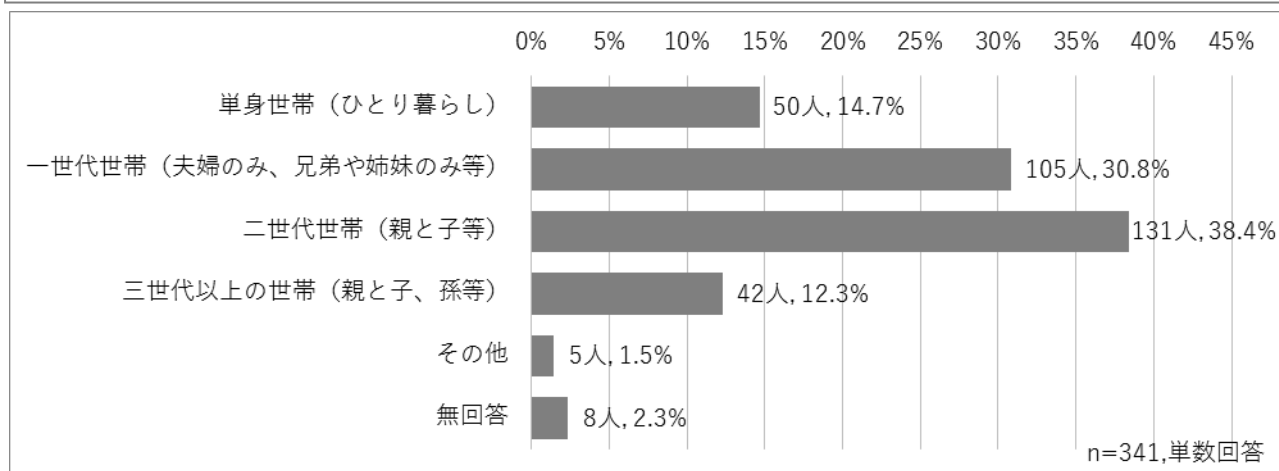
Q1-5 ご職業を選んでください

- ・回答者の職業をみると、「その他」が 22.3%と多く、次いで「専門的・技術的職業従事者」の 10.6%、「管理的職業従事者」の 8.2%の順である。



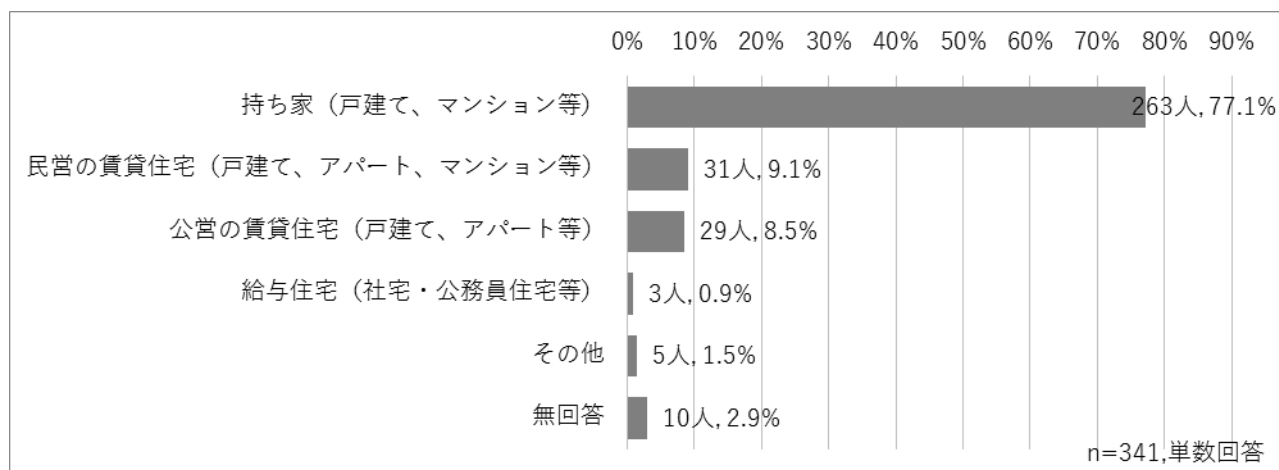
Q1-6 家族構成を選んでください

- ・回答者の家族構成をみると、「二世世代世帯」が 38.4%と多く、次いで「一世代世帯」の 30.8%、「単身世帯」の 14.7%の順である。



Q1-7 現在の居住形態を選んでください

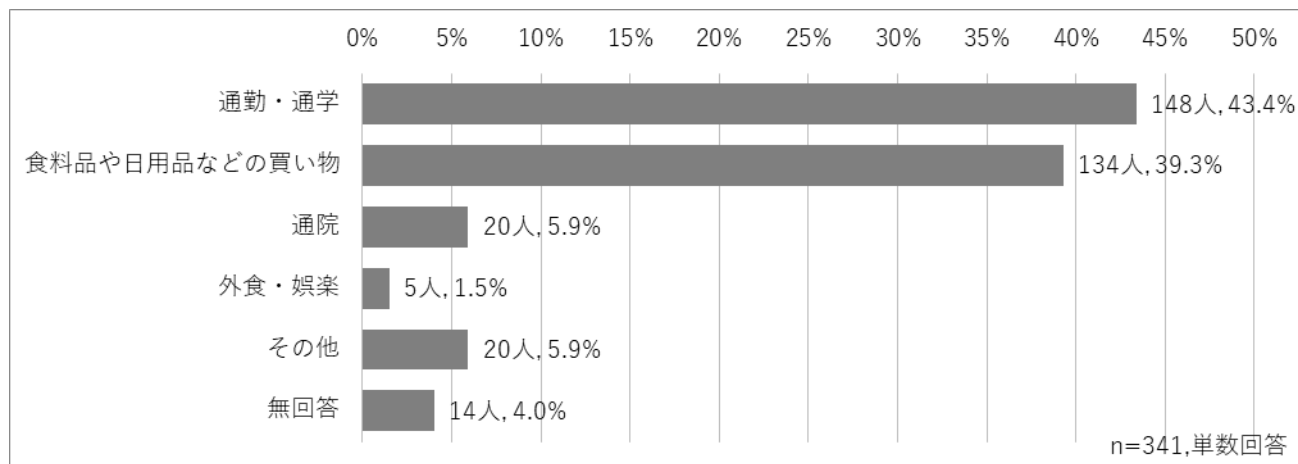
- ・回答者の居住形態をみると、「持ち家」が 77.1%と圧倒的に多い結果である。



(2) 外出目的、交通手段

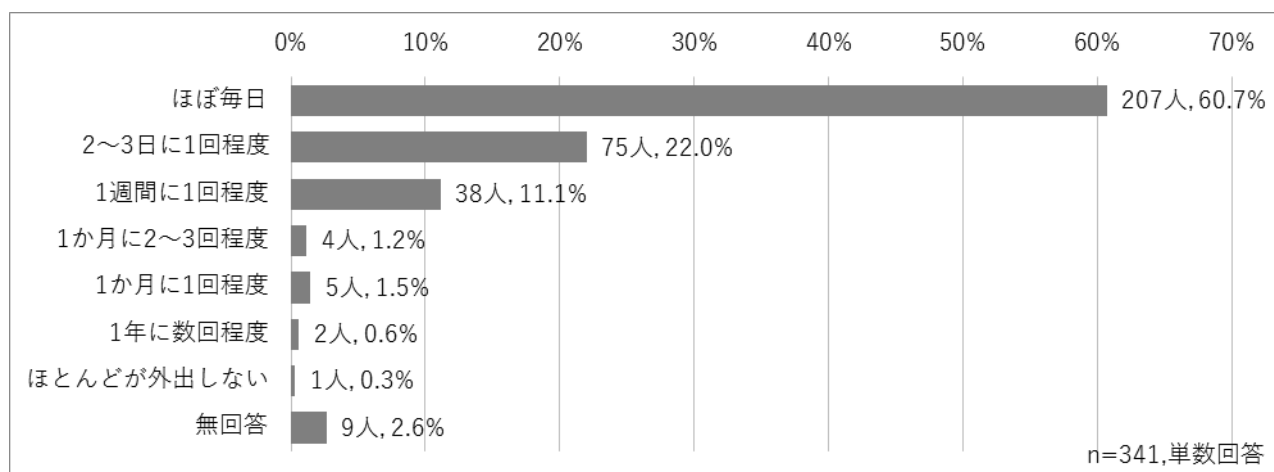
Q2-1 主にどんな目的で外出することが多いですか？

- ・回答者の外出目的をみると、「通勤・通学」が43.4%と多く、次いで「食料品や日用品などの買い物」の39.3%順である。



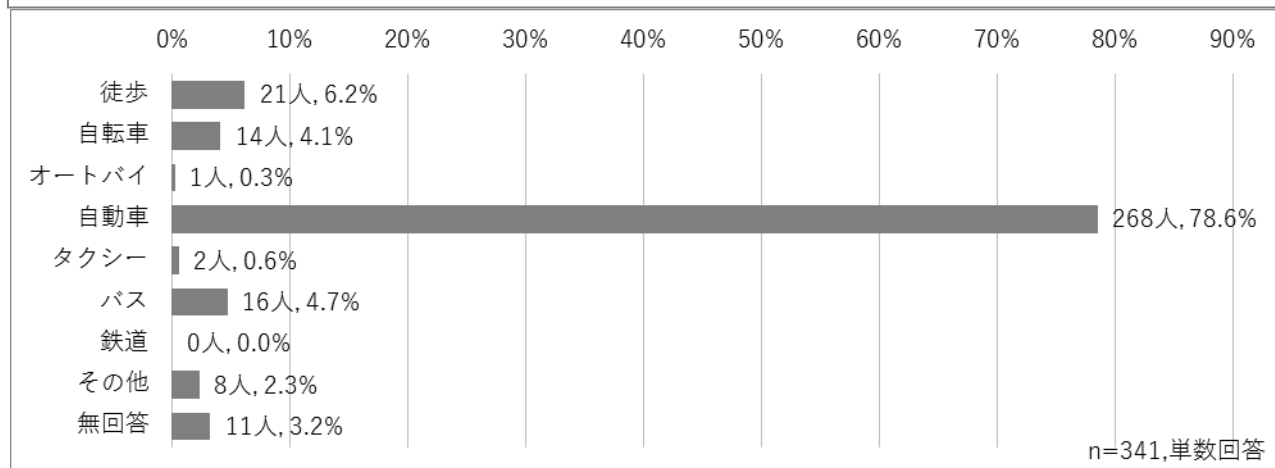
Q2-2 外出される頻度はどの程度ですか？

- ・回答者の外出頻度をみると、「ほぼ毎日」が60.7%と圧倒的に多く、次いで「2～3日に1回程度」の22.0%の順である。主な外出目的行動が通勤・通学や買い物が多いことから、日常的に外出されていることが伺える。

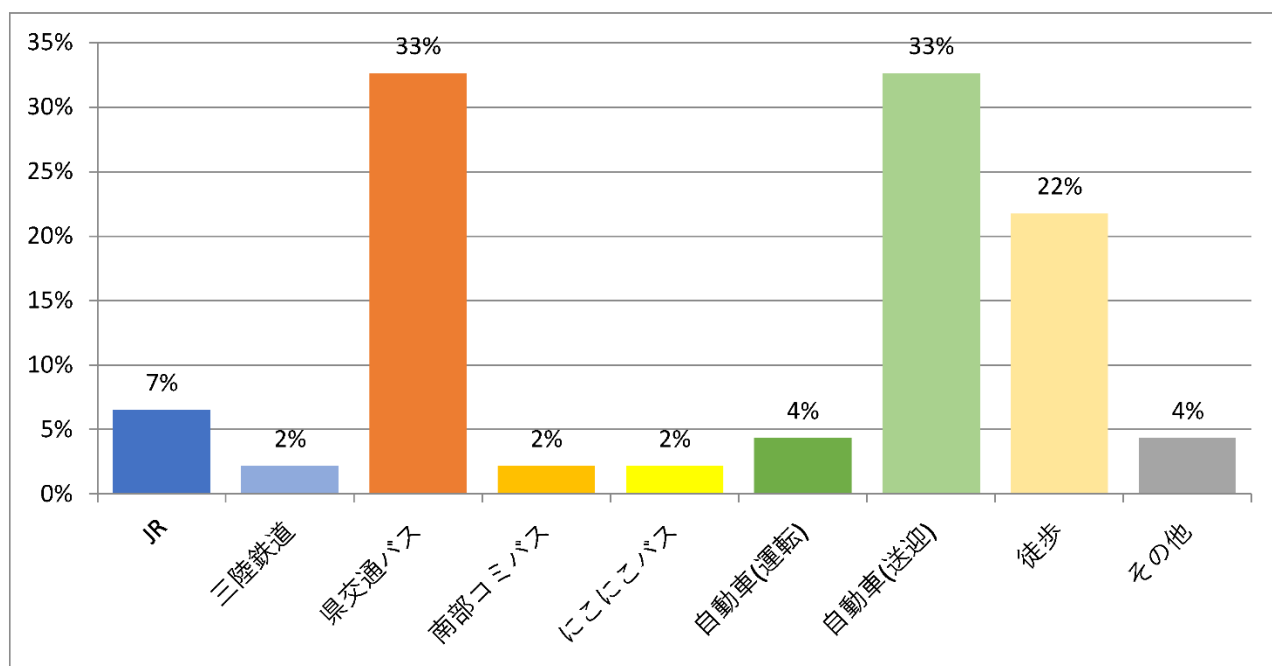


Q2-3 外出される場合、よく利用される交通手段は何ですか？

- ・回答者が外出される場合の交通手段をみると、「自動車」が78.6%と圧倒的に多く、日常生活においては自動車利用の依存度が高いことが伺える。
- ・一方、「徒歩」の6.2%、「自転車」の4.1%、「バス」の4.7%は低い結果である。



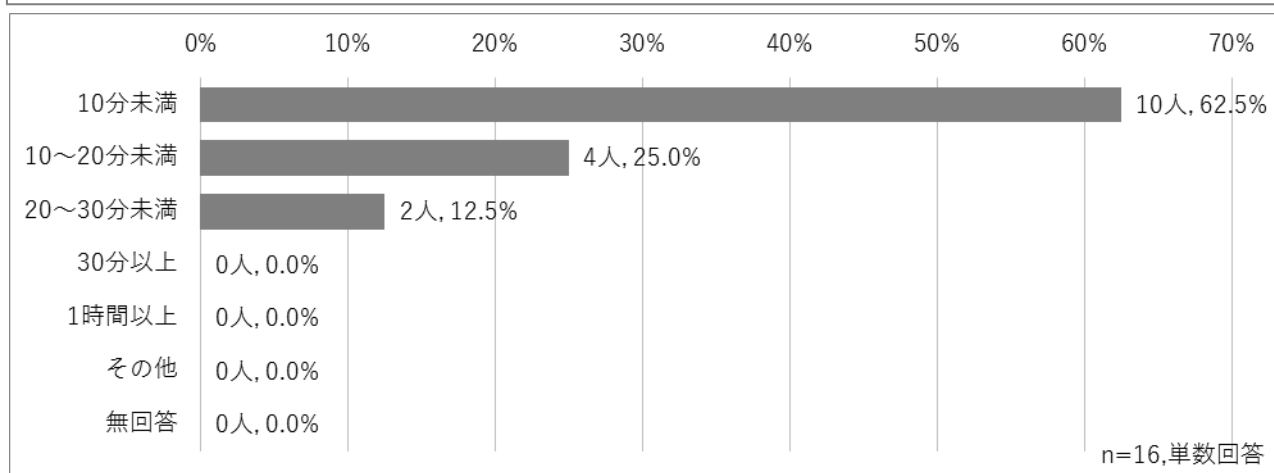
本アンケートの対象外である18歳未満の交通手段について、令和2年8月に実施した「釜石市の公共交通に関するアンケート調査」を参考にすると、「通学の交通手段」として鉄道を利用している割合が10%以下にとどまっており、県交通バスと自動車による送迎が多い結果となっている。



出典：釜石市の公共交通に関するアンケート調査報告書「通学の方法」

Q2-4 最寄りのバス停や駅までの所要時間（Q2-3 の設問で「バス」「鉄道」の回答者のみ）

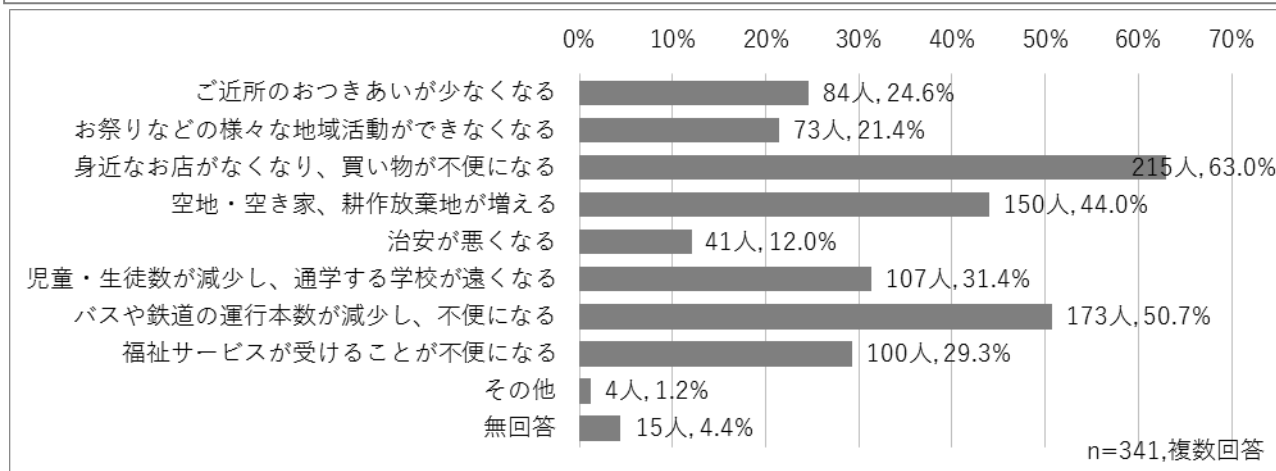
- ・回答者の公共交通（バス・鉄道利用）を利用される方が、最寄りのバス停や駅までの所要時間をみると、「10 分未満」が 62.5%、次いで「10～20 分未満」の順である。



(3)人口減少・少子高齢化について

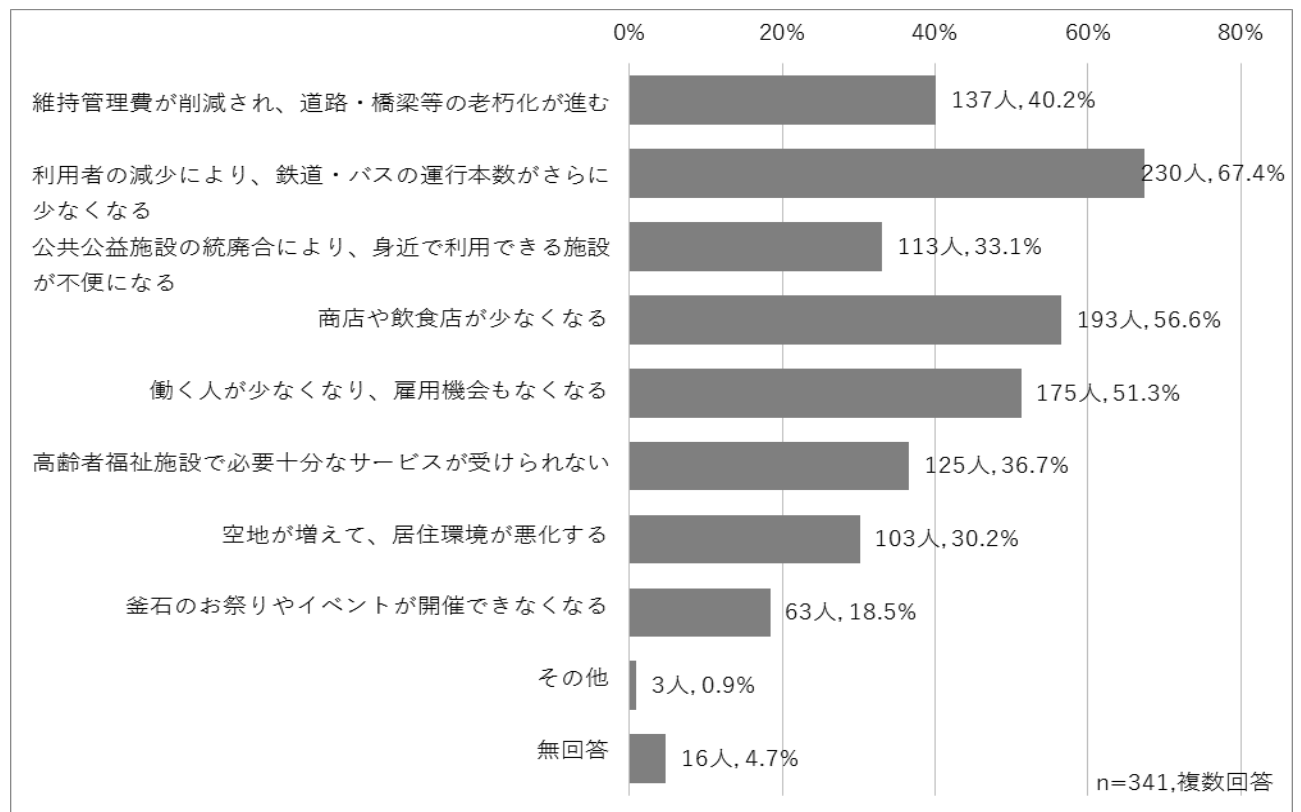
Q3-1 釜石市も人口減少や少子高齢化が進んでいます。日常生活において、どのようなことが不安ですか？

・高齢化社会が進行する中での日常生活の不安を見ると、「身近なお店がなくなり、買い物が不便になる」が63.0%と多く、次いで、「バスや鉄道の運行本数が減少し、不便になる」の50.7%、「空地・空き家、耕作放棄地が増える」の44.0%の順である。



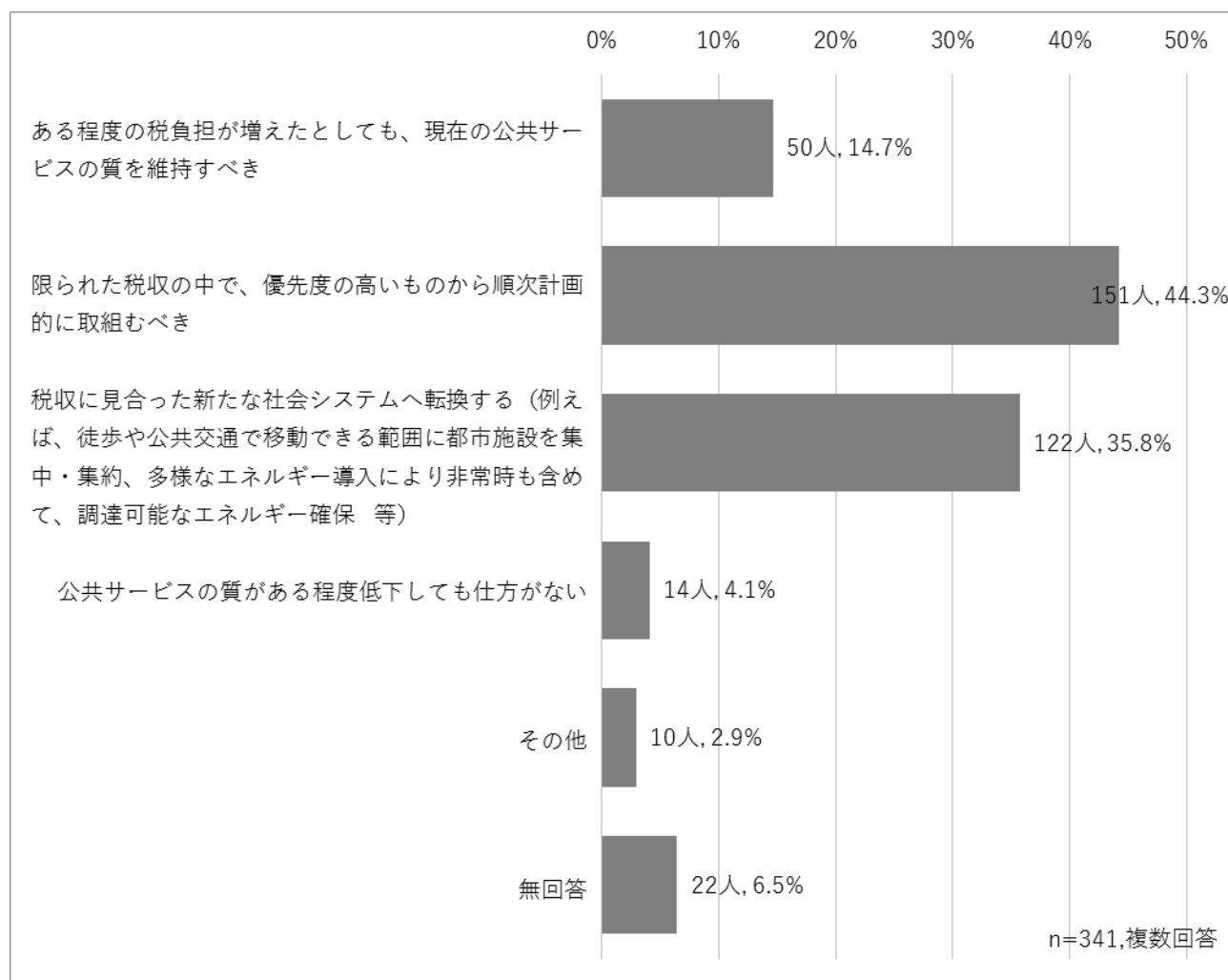
Q3-2 釜石市として、どのような問題を抱えると思いますか？

・本市が抱える問題を見ると、「利用者の減少により、鉄道・バスの運行本数がさらに少なくなる」が67.4%と多く、次いで、「商店や飲食店が少なくなる」の56.6%、「働く人が少なくなり、雇用機会もなくなる」の51.3%の順であり、日常的な生活面の不安や働く場所への不安を抱えていると伺える。



Q3-3 釜石市が公共サービスを持続する上で、取組むべき方向はどうお考えですか？

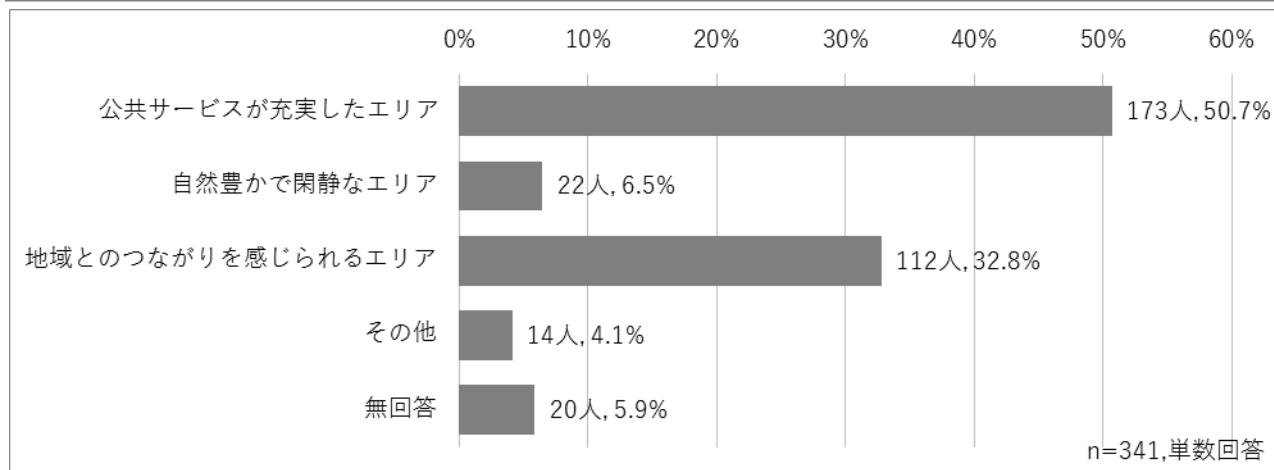
- ・本市の公共サービスを持続するための取組みを見ると、「限られた税収の中で、優先度の高いものから順次計画的に取組むべき」が 44.3%と多く、次いで、「税収に見合った新たな社会システムへ転換する」の 35.8%の順であり、限られた税収で工夫すべきという意向が多いことが伺える。



(4)暮らしの場のあり方について

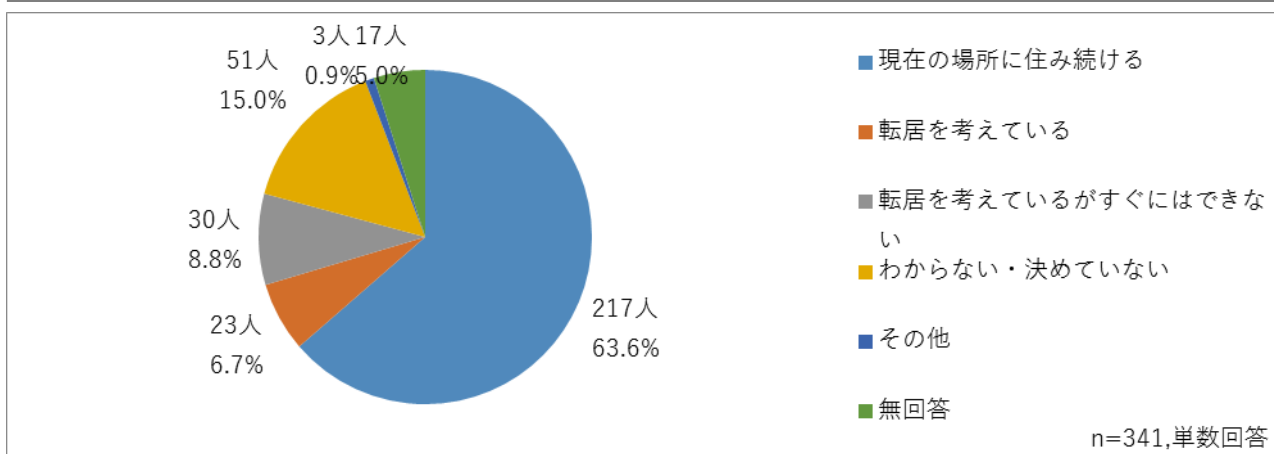
Q4-1 少子高齢社会が進展する中、市民が住む場所として望ましい場所はどこですか？

- ・市民が住む場所として望ましい場所を見ると、「公共サービスが充実したエリア」が 50.7%と多く、次いで、「地域とのつながりを感じられるエリア」の 32.8%の順である。

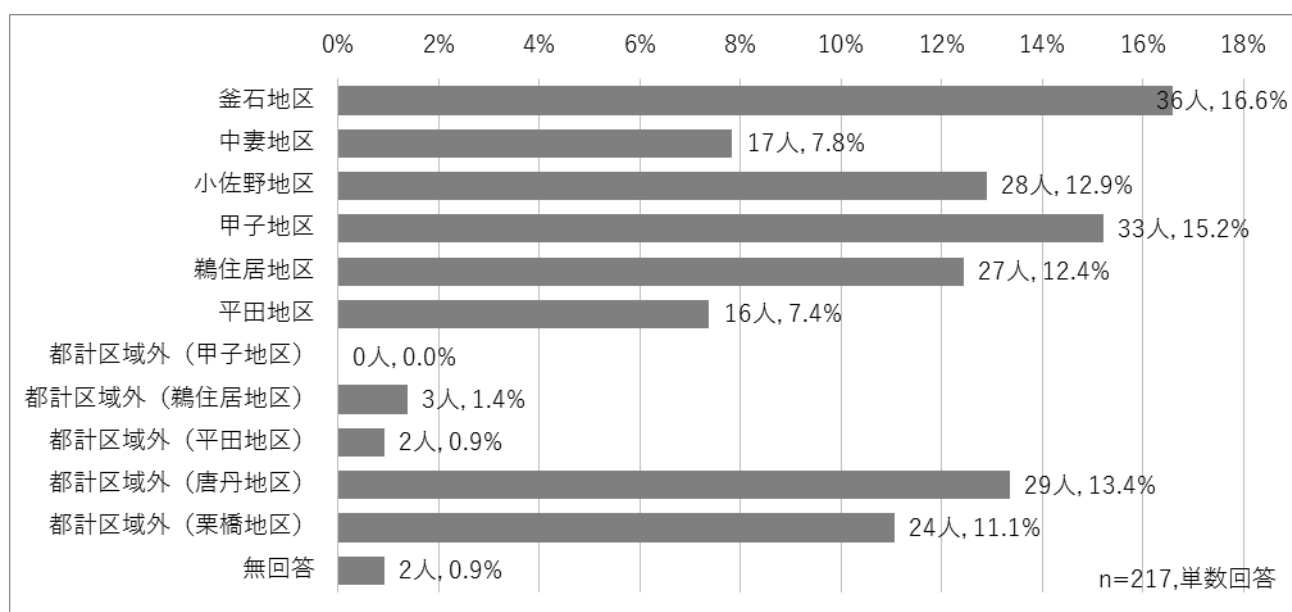
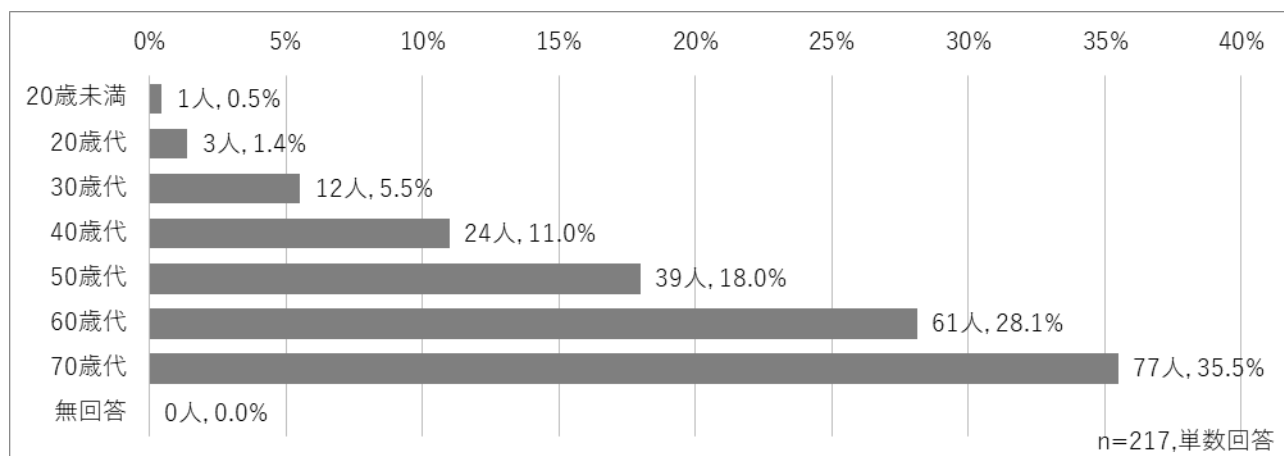


Q4-2 将来の住まいの場所としては、どのようにお考えですか？

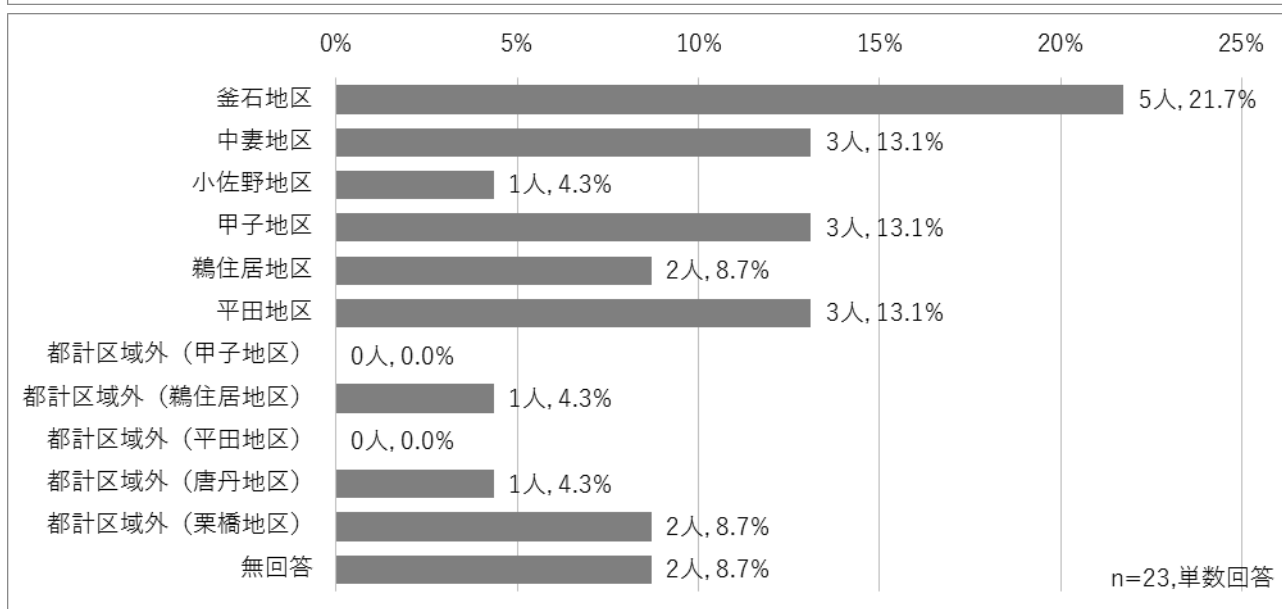
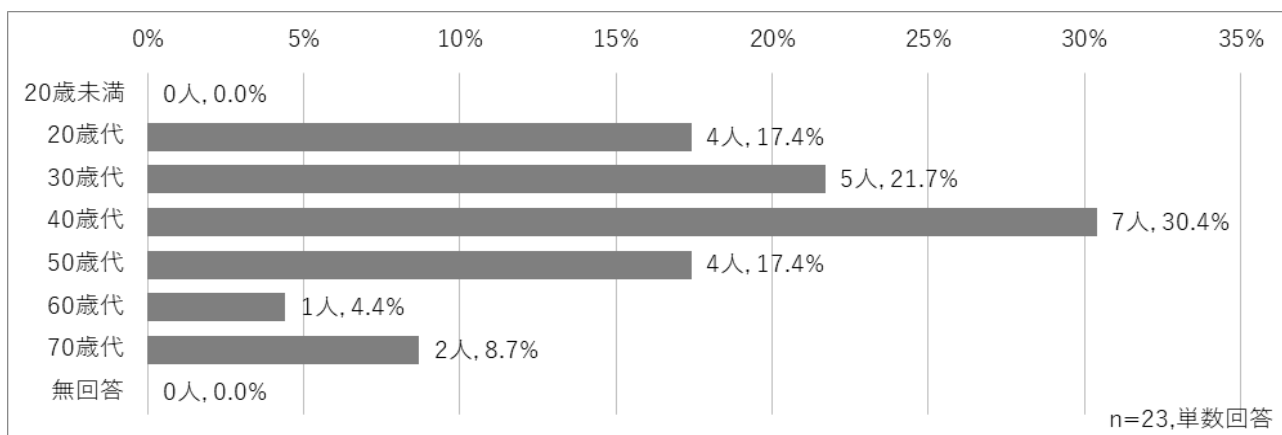
- ・将来の住まいの場所を見ると、「現在の場所に住み続ける」が 63.6%と圧倒的に多い。
- ・一方、「転居を考えている」の 6.7%、「転居を考えているがすぐにはできない」の 8.8%と転居を考えている回答者は 15.5%である。



- ・Q4-2 で「現在の場所に住み続ける」と回答された方の年齢を見ると、「70 歳代」が 35.5%、「60 歳代」が 28.1%と全体の 63.6%を占めている。
- ・また、同様に地区別でみると、「釜石地区」が 16.6%、「甲子地区」が 15.2%の順になっている。

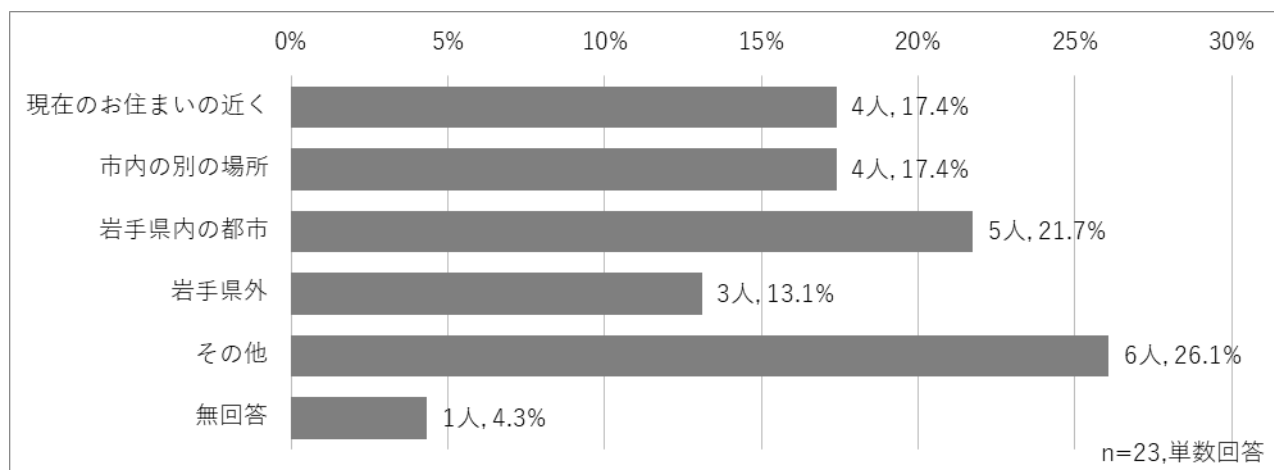


- ・一方、Q4-2で「転居を考えている」と回答された方の年齢を見ると、「40歳代」が30.4%、「30歳代」が21.7%と全体の52.1%を占めている。
- ・また、同様に地区別でみると、「釜石地区」が21.7%、「中妻地区」「甲子地区」「平田地区」が13.1%の順になっている。



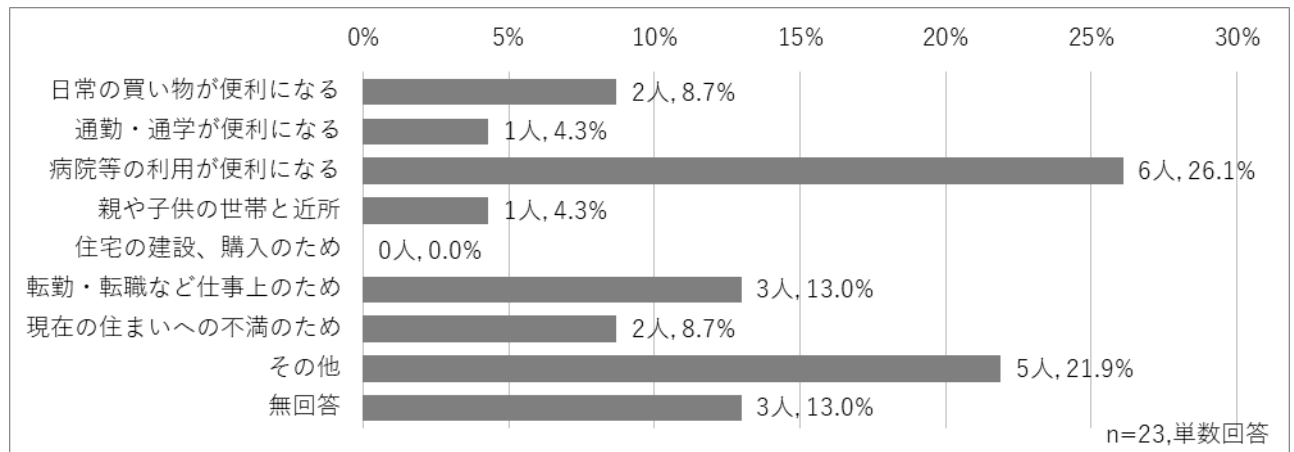
Q4-3-1 転居をお考えの方にお尋ねします。想定される転居先の場所はどこですか？（Q4-2「転居を考えている」の回答者のみ）

- ・転居先の場所を見ると、「現在のお住まいの近く」が17.4%、「市内の別の場所」が17.4%に対して、「岩手県内の都市」の21.7%、「岩手県外」の13.1%と市外に転居を考えている回答者が34.8%である。



Q4-4 転居をお考えの方にお尋ねします。転居をお考えの理由はなんですか？（Q4-2「転居を考えている」の回答者のみ）

- ・転居理由を見ると、「病院等の利用が便利になる」が26.1%、「転勤・転職など仕事上のため」が13.0%である。



- ・転居理由について、回答数が少ないことから、全体的な傾向は把握できないが、年齢別・地域別の回答は、以下のとおりである。

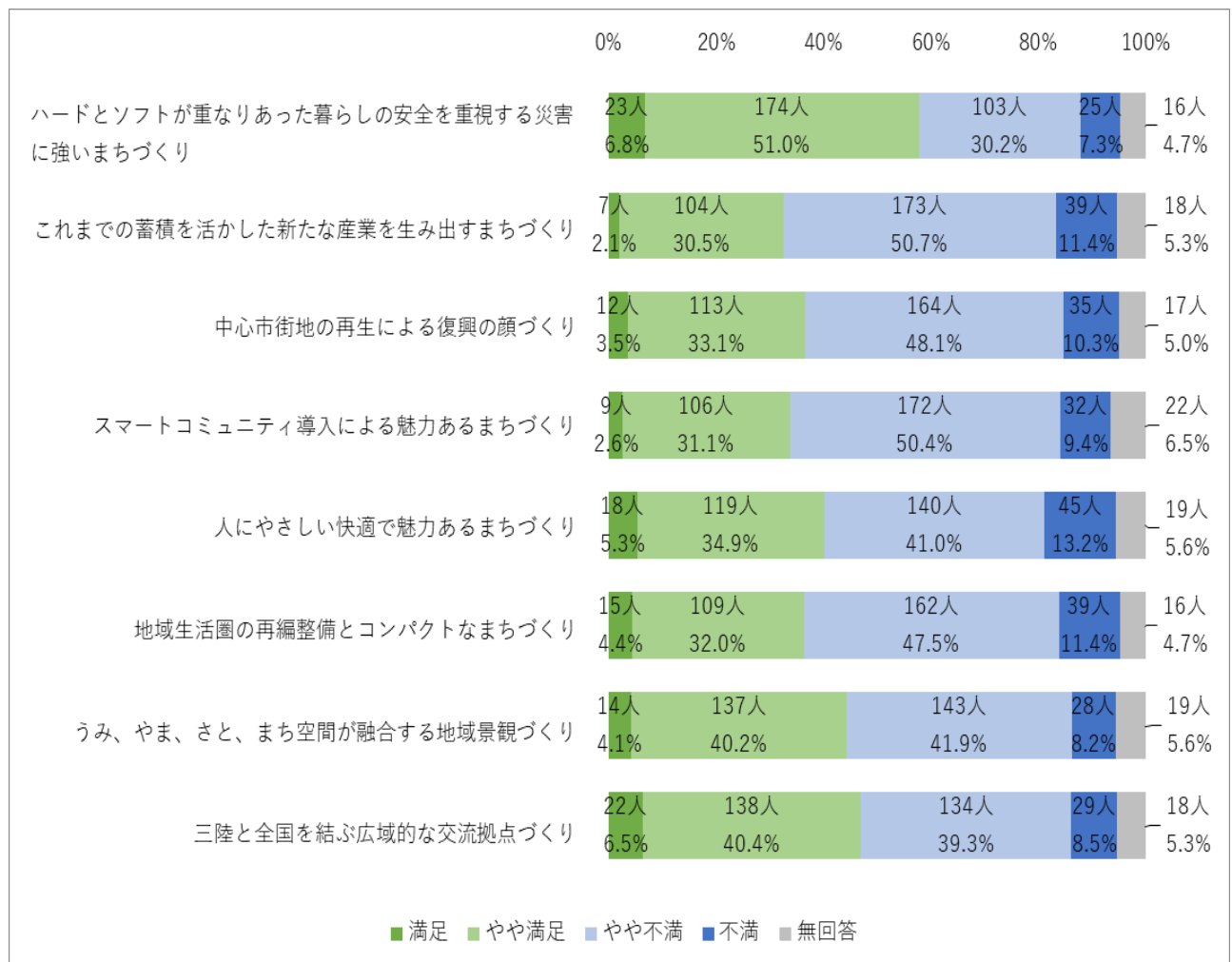
	年齢分布							
	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	無回答
日常の買い物が便利になる	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	0人
通勤・通学が便利になる	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人
病院等の利用が便利になる	0人	0人	3人	2人	1人	0人	0人	0人
親や子供の世帯と近所	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人
住宅の建設、購入のため	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
転勤・転職など仕事上のため	0人	1人	0人	2人	0人	0人	0人	0人
現在の住まいへの不満のため	0人	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人
その他	0人	1人	0人	1人	1人	1人	1人	0人
無回答	0人	1人	0人	1人	1人	0人	0人	0人

	地区分類											
	釜石地区	中妻地区	小佐野地区	甲子地区	鶴住居地区	平田地区	都計区域外 (甲子地区)	都計区域外 (鶴住居地区)	都計区域外 (平田地区)	都計区域外 (唐丹地区)	都計区域外 (栗橋地区)	無回答
日常の買い物が便利になる	0人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
通勤・通学が便利になる	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
病院等の利用が便利になる	1人	2人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人
親や子供の世帯と近所	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
住宅の建設、購入のため	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
転勤・転職など仕事上のため	1人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
現在の住まいへの不満のため	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他	1人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	1人	1人
無回答	0人	0人	0人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人

(5)これまでの取り組みに関する満足度について

Q5 8つの基本方針の満足度

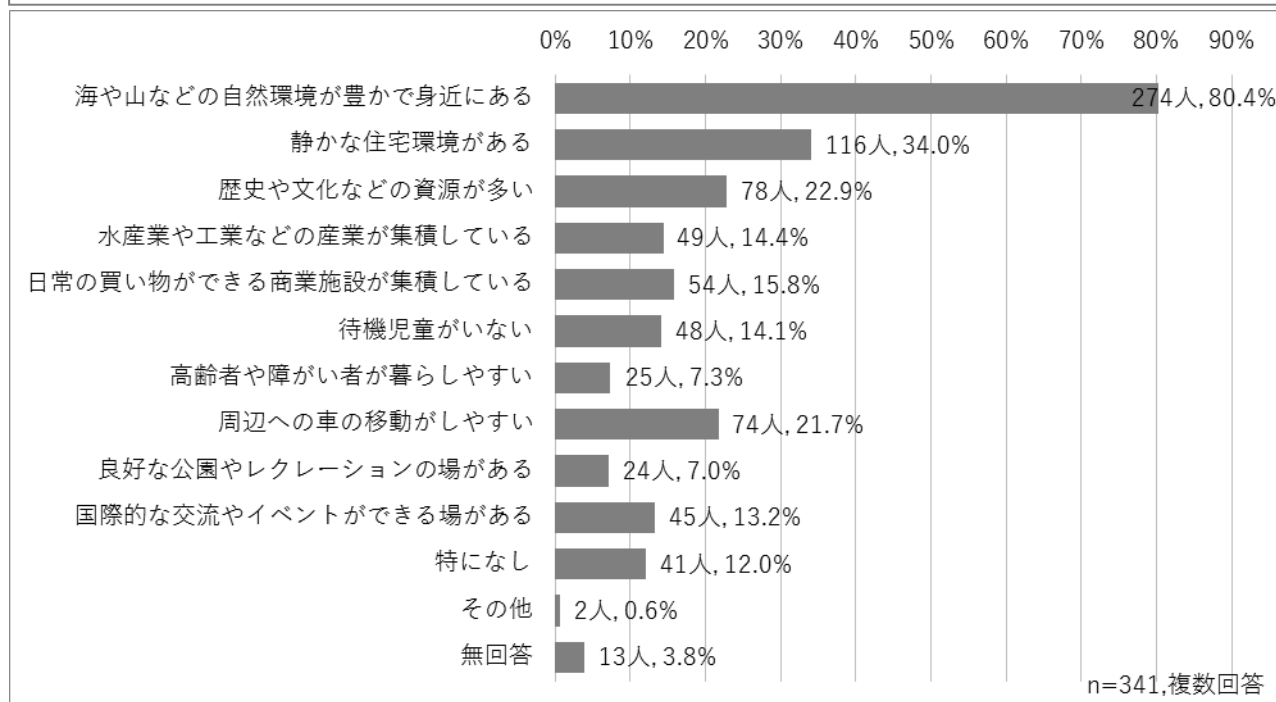
- ・都市計画マスタープランに位置づけた8つ基本方針に対するこれまでの取り組みの満足度を見ると、満足度が高い（満足、やや満足）ものは、「ハードとソフトが重なりあった暮らしの安全を重視する災害に強いまちづくり」が57.8%、「三陸と全国を結ぶ広域的な交流拠点づくり」が46.9%であり、被災地という地域性により、一定の評価を得られたことが伺える。
- ・一方、比較的満足度が低い（不満、やや不満）ものは、「これまでの蓄積を生かした新たな産業を生み出すまちづくり」の62.1%、「スマートコミュニティ導入による魅力あるまちづくり」の59.8%の順である。次いで、「地域生活圏の再編整備とコンパクトなまちづくり」が58.9%、「中心市街地の再生による復興の顔づくり」が58.4%と日常的な生活圏域に関する満足度が比較的低い結果である。



(6)将来の都市づくりの方向性について

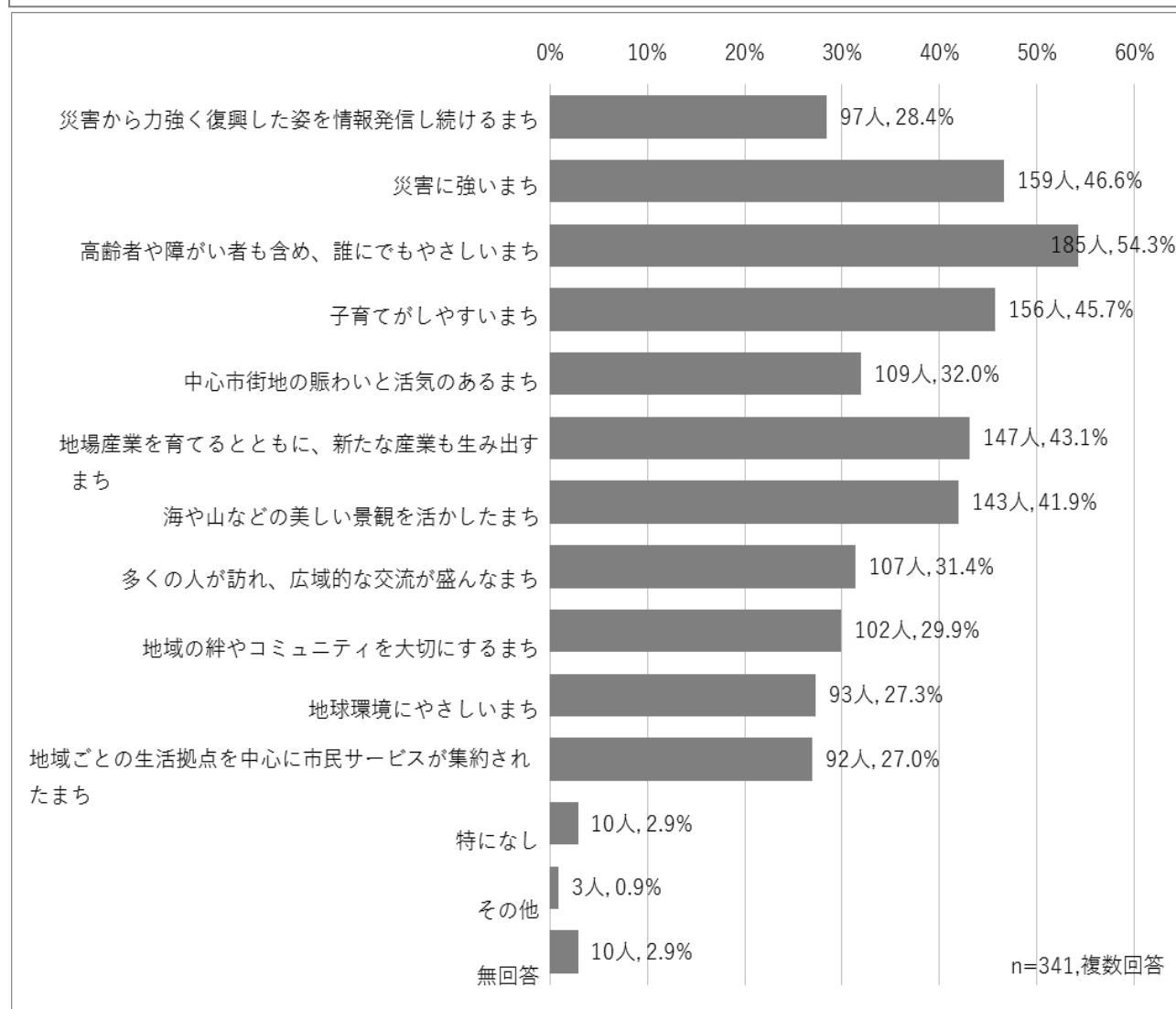
Q6-1 釜石市の“まちの魅力や良いところ”はどこですか？

・釜石市のまちの魅力や良いところを見ると、「海や山などの自然環境が豊かで身近にある」が80.4%と圧倒的に多い。次いで、「静かな住宅環境がある」の34.0%、「歴史や文化などの資源が多い」の22.9%の順である。



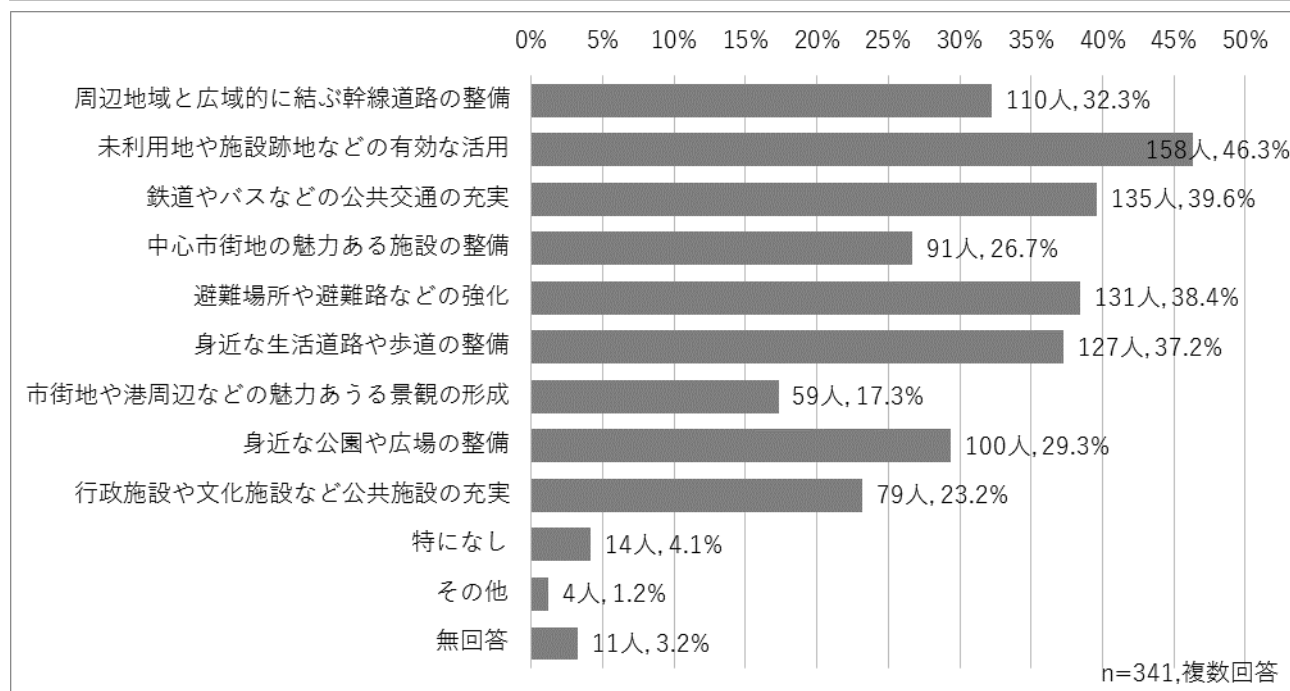
Q6-2 釜石市が目指すべき“将来のまちの姿”についてどうお考えですか？

- ・釜石市の将来のまちの姿を見ると、「高齢者や障がい者も含め、誰にでもやさしいまち」が 54.3% と多く、次いで、「災害に強いまち」の 46.6%、「子育てがしやすいまち」の 45.7% の順である。



Q6-3 釜石市において、特に「都市づくり（土地利用、道路・公園など）」に関して、今後重要だとお考えのことはなんですか？

・釜石市の将来のまちの姿を見ると、「未利用地や施設跡地などの有効な活用」が46.3%と多く、次いで、「鉄道やバスなどの公共交通の充実」の39.6%、「避難場所や避難路などの強化」の38.4%の順である。



Q6-4 今後、まちづくりを進めるにあたって、必要な取組みは何ですか？

- ・今後、まちづくりを進めるための必要な取組みを見ると、「住民が積極的にまちづくり活動に参加できる機会をつくり、官民協働のまちづくりを進める」が35.2%と多く、次いで、「まちづくりを実現するために、行政、住民、民間事業者によって検討する組織づくりを行う」の32.6%、「住民や民間事業者からまちづくり提案ができる仕組みづくりを行う」の29.6%の順である。
- ・被災地としての各種復興事業等の計画・事業過程において、地元住民の合意形成のための取組み成果が、地元住民のまちづくり参加に対する意識の醸成が図られたものと考えられる。

